菊池市立菊池北中学校　学校だより　No.7
2026.5.29　文責　岩谷　寛

生きる

叱ってくれる人ちゃんといますか？

先週、高校時代の部活動（柔道部）の同窓会に行ってきました。高校を卒業して40年という節目の年でもありましたが、3年前に病気で他界したなかまの墓参りをしよう！というのが、今回の同窓会を開くきっかけになりました。みんないいおじさんになりましたが、お酒を酌み交わしながら話題になることは、本当に練習が地獄のように厳しかったことと、顧問の先生が鬼のように厳しく、叱られてばかりいたこと、そして先輩たちが怖かったことばかりでした。今では、その全てが懐しくて笑い話になりますが、実際その当時は本当にきつくて苦しいことばかりでした。

――さて、君たちの中に、"叱られたことがない"という人はいますか？ 私はこの年になるまで、実に多くの人に叱られてきました。おそらく一番叱られたのは今は亡き母親ではないか、教師になってすぐの頃は、先輩の先生によく叱られました。よくよく考えてみると、毎日の生活の中では、ほめられることより叱られることの方が多かった気がします。叱られるより、ほめられる方がず～っと気持ちいいことも知っています。学校では、君たちは先生に叱られます。いやですよね、叱られると嫌～な気持ちになりますよね、わかります。だけどね…叱る方も、叱られる方と同じくらい嫌～な気持ちになることも知ってください。私が思うに、肝心なことは"叱られた時の受けとめ方"だと思います。叱る側は、その人のことを真剣に思って全力で叱ること。そうすれば、叱られた方は、なぜ叱られたのか、何がいけなかったのかに気付くはず。叱る人も叱られる人も、大切なのは"心"ですね。叱られたことをプラスに考えるのは難しいかもしれないけれど、私は、今日君が誰かに叱られたことは、きっといつか社会に出た時、役立つ日がやってくる!! そう信じています。

令和７年度研究発表に向けて ～全教主任参集型の研究授業～

菊池市教育委員会の指定を受け、令和７年度から「学力向上」の研究をすすめています。本年度がその発表の年になります。発表は年明けの1月29日を予定しています。

先週の水曜日は、本年度最初の研究授業を行いました。研究主任の古賀先生が自ら提案授業をしてくれました。講師として県立教育センターから河野先生に来ていただき、職員にとっても大きな学びの場となりました。今回の研究授業は、研究の柱のひとつでもある「対話活動」にスポットをあてた道徳の授業でしたが、ランチルームに全教主任を集めて、参集型の研究授業という試みに挑戦しました。また、授業研究会に生徒も参加して意見を言う場面も設けました。授業の主役だった2年生は、慣れない環境下であっても物怖じせず、堂々とした立派な姿でした。授業だけでなく学校教育活動を通して"対話活動"に力を入れていきます。2年目の集大成となる今年度の研究を、古賀研究主任のリーダーシップのもと、全職員で取り組んでいきたいと思います。